

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

平成29年8月2日

釧路市議会議長 渡辺 慶藏 様

会派名 自民クラブ

代表者名 草島守之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	続木敏博
出張先	東京
期間	平成29年 7月27日 ~ 平成29年 7月29日 (3日間)
用務	地方議会総合研究所フォーラム受講
調査(研修)結果等の概要	別紙の通り
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

地方議会総合研究所フォーラム受講報告書

釧路市議会 自民クラブ
続木敏博

日時：平成 29 年 7 月 28 日

場所：アットビジネスセンター池袋駅前別館

セミナー担当講師：中西穂高氏 帝京大学教授・知的財産センター長
元通産省資源エネルギー庁産炭地域振興室長
高知県副知事
内閣参事官

午前の部（10：00～12：30）

地域活性化のための行政の在り方

1、地域活性化の意味と政策の流れ

地域活性化とは「地域経済活性化」と「地域住民の活動の活発化」の二つに分類できる。

1990 年の「過疎地域活性化特別措置法」以降「地域活性化」がよく使われる。

その後地域活性化政策の歴史を一通り説明され、時代の趨勢を紐解きながら 1962 年の全国総合開発計画(全総)から工業再配置促進法、1980 年代のテクノポリスの説明や頭脳立地法の地域要件、そして 1990 年代後半からのパラダイム転換期の法律の変遷、特に 2001 年の新産・工特法廃止までの流れをわかりやすく解説いただいた。

2、行政の役割

行政の特徴として、「変化を好まない」に対して「新しいことをやりたい」の対立が常にある中での変化の変遷を学んだ。

特に NPM(New Public Management)や PPP(Public-Private Partnership)、聖域なき構造改革(小泉内閣)、新しい公共(鳩山総理)についての説明がされた。

PPP に関してはアウトソーシング(民間委託)の問題について歴史も含めて詳しく解説された。

PF I についても有効な方法であるが実際に失敗例もあるとして、高知医療センターの例も出されて(講師の高知県副知事時代の例)説明された。

3、コンパクトシティ

これに関しても青森市の「フェスティバルシティ・アウガ」の例を取り上げて、この失敗例はコンパクトシティの問題というよりは、行政主導の商業施設を作ろうとしたことによる失敗と位置付けていた。

4、住民と地域活性化の関わり

ここでは行政業務を地域にアウトソーシングすることによる地域活性化を推進すべきという考えの上での解説になった。

特に地域活動の活発化としてテレワークの活用による各種議事録のテープ起こしを中山間地域の貴重な収入源にした例であるとか、高知県でも行政職員の意識改革から始めて仕事の進め方を変えた話などをされた。

5、地方創生、まとめ

地域資源の活用を地域が考えることが必要であり、これまでにない発想、前例や他の事例にとらわれない発想が必要（行政の発想からの脱却）であること、人を中心に添えた活性化を是非議員の役割として取り組んでもらいたい旨の話で午前の講義を終わった。

午後の部（14：00～17：00）

地域活性化の新たな展開

1、地域資源の見つけ方と活用

ここでは地域資源活用事例を示しながら、地域資源にどのように付加価値をつけるのか等の話がされた。例：和歌山県南部川村の南高梅の梅干し、山口県美祢市の刑務所誘致、徳島県上勝町の葉っぱビジネス等々。

2、地域経営と中心市街地活性化

ここでも高松市の丸亀町商店街の例や高知市のひろめ市場の例を示しながら発想の転換による街づくりの話がされた。

3、地域技術の活用

4、地域活性化と大学

5、働き方改革と地域活性化

と順に進みながら今後の地域での働き方改革が重要との話につながっていった。その中でも重要視しているのが「テレワーク」。

テレワークとは情報通信手段を活用して場所や時間にとらわれない柔軟な働き方であり、テレワークの効果として

①少子高齢化対策

- ②ワークライフバランスの実現（働く場の拡大）
- ③地域活性化
- ④環境負荷軽減
- ⑤有能・多様な人材確保（労働生産性の向上）
- ⑥業務効率化（顧客満足度の向上、コスト削減）
- ⑦非常災害時の事業継続（危機管理）

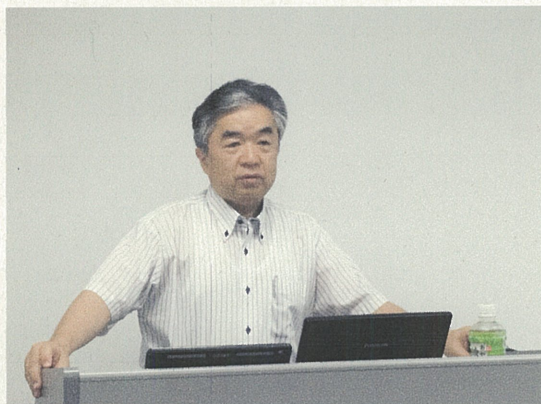
と挙げ、地方の持つ地理的格差を解消する可能性を示した。

その後テレワークの地域活性化効果の説明があり、類型4種類に分けたテレワーク事業の分類の説明を受け、新しい仕事の形に変化してゆくとの話であった。

6、まとめ

まとめとして情報、知識、行動力を統合して新しい時代の価値観、人材、働き方を目指していただきたい旨の激励を受けて講義が終わった。

一連の講義終了後、講師と資源エネルギー庁産炭地域振興室長時代に釧路（太平洋炭鉱）に何度も来られてご指導いただいた話に花が咲いた。現在のコールマインの状況や火力発電所の進捗状況の報告をしながら地元で頑張ってもらいたいとのエールをいただいていたことを報告に付け加えておく。



セミナー担当講師：中西穂高氏